



神社と四季「吉備津神社 防災設備一斉放水」

そのような思いの中、私達は氏子や総代として神職の皆様と共に社頭が賑わうように一層の尽力を致そうではありませんか。

私は、神社神道は民俗信仰であり、日本人は神社信仰に対する敬意をまだ失っていませんし、折々には神社にお参りする信念は持つていると思っています。地震、津波、台風、洪水等の天災の続く不運な国で、生命の儻さに悩まされていることは事実ですが、それでも美しい私達の日本は、神々に愛でられた国であることを忘れてはならないと思うのです。

私達の国は、少子高齢化により人口減少社会を迎える中、神社を取り巻く環境の厳しさを再認識致しました。ひとりの神職が本務社以外に財務基盤乏しい数社の兼務宮司さんをお努めなさっている方も珍しくなく、祭事の為の、標縄作りも儘ならぬ事もあると聞きました。こうした現実には、島原だけではなく里山や海辺の無人の神社等、全国的な傾向で広島県でも同じではないでしょうか。地方でつましく神社神道を守るため、その一念でご奉仕なさっている神職の皆様がいらっしゃる事を私は感銘を受けました。

元日の能登半島地震では、申す迄もなく亡くなられた方、関連死の方等、半年過ぎた今も不明の方や不自由な生活を余儀なくされている方々、哀悼の意と被災された皆様へ心からのお見舞いを申し上げたいと思います。少しでも早く復興が進み、あの美しい能登の景色が蘇りますことをお祈り申し上げる次第であります。

そうした思いの中、私は本庁の「神社総代研修会」に参加致しました。今年の「過疎地域神社活性化推進施策」については、長崎県島原半島地域で各神社参拝後、関係者の皆様より現状や取組を伺いました。



神々の愛でる国、日本
 広島県神社総代連合会 副会長 中尾建三

広島県神社庁報 ふたば

氷

第154号

発行所 広島県神社庁
 広島市東区二葉の里
 ☎(082) 261-0563
 FAX(082) 261-6628

第六十八回 広島県神社関係者大会 表彰

広島県神社庁表彰

一、神職の部(十五名)

広島市 邇保姫神社権禰宜 渡部宣彦
 呉 八岩華神社宮司 花田忠正
 新宮八幡宮宮司 小方一磨
 三原 糸碕神社禰宜 竹田美智子
 尾道御調 國津神社宮司 白松盛
 府中荳品 素盞鳴神社禰宜 江熊浩司
 三 次 鷺神社禰宜 圓藤竜久
 佐伯大竹 嚴島神社権禰宜 永田匡明
 安 芸 尾崎神社宮司 香川一彦
 神田神社禰宜 宮之首孝浩
 安 佐 田中山神社禰宜 植木繁之
 世 羅 八幡神社宮司 竹廣浩二
 深 安 賀茂神社禰宜 石井世津子
 神 石 相渡八幡宮禰宜 伊藤ヒサヨ
 比 婆 西 天満神社宮司 伊達詩恵

二、責任役員の部(七名)

三 次 知波夜比古神社責任役員 松田敏昭
 佐伯大竹 伊勢神社責任役員 大石敬二
 大頭神社責任役員 大島明德
 山 西 大歳神社責任役員 西川征吾
 賀 茂 堀越神社責任役員 佐々繁恒夫

賀 茂 杉森八幡神社責任役員 鳥井鉄文
 比 婆 東 多熊神社責任役員 横山正昭

三、総代の部(六名)

広島市 神田神社総代 中原健治
 邇保姫神社総代 新藤 認
 邇保姫神社総代 縫部英二
 府中荳品 素盞鳴神社総代 大村靖爾
 三 次 嚴島神社総代 武永雅彦
 賀 茂 石清水八幡宮総代 岡田育三

四、氏子崇敬者の部(四名)

呉 八幡神社崇敬者 中谷洋子
 八幡神社崇敬者 門前英美
 三 次 迦具神社崇敬者 宮本道英
 佐伯大竹 八幡神社氏子 清水秀昭

五、団体の部(一団体)

呉 八幡神社 海上保安大学校

広島県神社総代連合会表彰

一、責任役員(十三名)

沼 隈 八幡神社責任役員 畑本勝美

福 山 八幡神社責任役員 岡崎浩幸
 佐伯大竹 速谷神社責任役員 有田一彦
 安 佐 長束神社責任役員 杉本 勝
 堤平神社責任役員 井手端 章

山 東 八榮神社責任役員 佐々木 勲二
 八幡神社顧問 山本信行

山 西 大歳神社責任役員 堀田博和
 安芸高田 清神社責任役員 岡本郁雄

賀 茂 上戸八幡神社責任役員 倉田和彦
 世 羅 八幡神社責任役員 松尾勇三

深 安 岡山神社責任役員 江草一行
 神 石 八幡神社顧問 川上義民

二、総代の部(十二名)

広島市 三篠神社総代 枝松信利
 邇保姫神社総代 大濱尋海

沼 隈 寄ノ宮八幡神社総代 深坂武充
 福 山 長神社総代 藤本功夫

三 次 熊野神社総代 黒田修二
 安 芸 佐 長束神社総代 中尾秀行

安芸高田 清神社総代 西井幸雄
 賀 茂 八幡神社総代 光中澄夫

深 安 大宮神社総代 池溝康雄
 神 石 八幡神社総代 徳永一美

定 木 卓志

新庁舎建設地に速谷神社境内地

庁舎建設委員長 櫻井建弥

建設地決定の経緯

昭和五十一年に建設された広島県神社庁の庁舎は、老朽化が目立つ上に古い耐震基準で建てられたまま一度も耐震化工事が行われていません。近い将来、大規模地震も想定される中で庁舎の建設は長年の懸案でした。そのため神社庁では昨年「庁舎建設委員会」を立ち上げて鋭意検討を重ねてきました。委員会では、規模やコスト、交通便利性や駐車能力、各神社との連携性、職員が登記事務を行う際の法務局との近接性、災害対応力など多方面にわたって検討を進めてきました。

四十か所以上の物件を洗い出して計画策定を急ぎましたが、このところの建築資材や人件費の高騰、地価の上昇は予想をはるかに超えていました。特に想定外だったのは、現状の神社庁敷地での建て替えでした。土地の購入コストは不要ですが、駐車スペースに乏しく、地下駐車場が必要な上、アクセス道路が狭く工事費がかさんで、旧庁舎の解体費を含めた総事業費は六億円を超える恐れがありました。

また広島市内を中心に土地を買い上げて庁舎を建設する場合、最近の地価上昇が高じて、必要最小限の庁舎の建設を想定したとしても六億円から七億円の資金が必要でした。

全国の多くの神社庁が採用しているように、中心都市やその周辺にある神社の境内地の一部を提供してもらって新庁舎を建設するケースでは、要請に応じてくれたのが広島市の早稲田神社と

廿日市市の速谷神社の二社だけでした。早稲田神社は敷地とアクセス道路の狭さが課題でした。また速谷神社では敷地は広いものの、広島市中心部から車で三十分、JR広島駅から電車で二十分さらにタクシーかバスで十分の距離がありました。

そして、現状の建物を改修して使い続けることも含めて六つに選択肢に絞り込み討議した結果、①負担が最も少ないこと、②駐車場も広く必要十分な施設の建設が可能であること、この二点が評価され移転先は廿日市市に鎮座する速谷神社の境内地を借用し、新築することに決まりました。

事業費と募財について

次に総事業費ですが、複数の建設会社の概算をもとに試算した結果、積算額は四億三千万円と算定されました。これは昨年完成した長野県神社庁とほぼ同じ金額です。

募財の内訳は、神社庁会計から一億円、県総代連合会の会計より一千万円を支出、別表神社九社から一億円、別表神社を除く県内本務宮司神社二百九十二社より一千万円を寄進、旧庁舎の解体工事費を除く土地売却益約一億円を充当、その他関係者からも一千万円の寄付を募ることが決まりました。なお旧庁舎の土地について、複数の購入希望を確認しています。

そして、庁務の根幹をなすのは神職であるとの結論から、残り一億円については県内全神職からの寄進を仰ぐことになりました。

一、総事業費 四億三千万円

内訳 本体工事費 三億五千万円(設計管理料含む)

付帯工事費 二千万円(外構工事費他)

諸経費 二千万円(什器備品費他)

予備費 四千万円

一、募財総額 四億三千万円

内訳 広島県神社庁 一億円

県総代連合会 一千万円

別表神社九社 一億円

本務宮司神社二九二社 一千万円

県内全神職 一億円

旧庁舎土地売却益 一億円

その他関係者 一千万円

県内全神職からの一億円の寄進は、神職身分に応じて三年間に分けて以下の負担をお願いいたします。若い世代が多い三級や四級の神職に一定の負担をお願いするのは、実際に長く庁舎を使う世代であるという判断からです。

また総額で一億円を負担する別表神社九社を除く本務宮司神社二百九十二社は一口三万円、一社につき一口以上の寄進をお願いして一千万円を賄います。

一、寄進依頼先 県内全神職 一億円

及び 本務宮司神社二百九十二社 一千万円

一、募財期間 令和六年十月一日～令和九年三月末日

一、寄進依頼内容

神職身分 特級 六十万円(一年毎に二十万円)

一級 四十八万円(一年毎に十六万円)

二級上 三十万円(一年毎に十万円)

二級 二十四万円(一年毎に八万円)

三級 十二万円(一年毎に四万円)

四級 六万円(一年毎に二万円)

本務宮司神社 一口三万円(一社につき一口以上お願いします。)

庁舎予定地



教養研修会 報告

安芸高田支部教化委員 鳴石山神社 宮司 青山隆洋

去る令和六年六月二五日、広島県神社庁に於いて神職三七名の参加で教養研修会が実施されました。

冒頭に飯田教化委員長より、久邇神宮大宮司が陛下より第六三回神宮式年遷宮の準備について、お心遣いのお言葉を頂き、いよ本格的に始まることに、身の引き締まる思いであるとの挨拶の後、両陛下のイギリスへのご訪問中の安泰を祈願されました。

第一講は、『番組屋から造り酒屋へ』と題して昨年創業一五〇周年を迎えた老舗企業の賀茂鶴酒造(株)代表取締役社長の石井裕一郎先生が話されました。演題にもあるように、NHKからの入社。安倍元首相とオバマ米前大統領との会食で「ゴールド賀茂鶴」が振る舞われたことで注目され、現在でも銀座「すきやばし次郎」をはじめ数多くの有名店で長く愛用されております。石井先生が一番大切にしてください



たことは、創業以来の精神「酒の中に心在り」とのこと。そしてこの先、長きに渡り賀茂鶴が愛飲され続ける為に、若年層に向けて園児の酒米の田植え・児童の収穫体験・若者への酒蔵見学や飲酒マナーなど「お酒の成人式」と称して取り組まれていること等、伝統あるものの形を変えず将来に向けて努力されていることを熱く語られました。

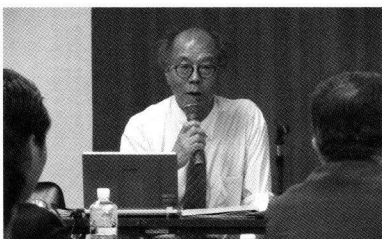
第二講は、『「伝わる話し方」神職が言挙げしてみると』と題して速谷神社禰宜の元NHKキャスター櫻井一穂先生が話されました。毎週ノートルダム清心高等学校の放送部の生徒達に「伝わる話し方」について講義をもっておられるとのこと。もったいない話し方をしていませんか？に対して①原稿を読むだけでは、相手に伝わらない。②話す内容を心に思い表現方法を考える。③後方から

話す場合は、相手を感じながら話す。④テンポ・強弱・声のボリューム・間を開け誰に伝えるかを考え話す等が最も大事であると。またプロのアナウンサーは、低い声で話すと相手は本音で話しているように感じるそうで考え方を相手に伝える為には落ち着き安定した話し方を繰り返し返すことが大事なことだと話されました。速谷神社では「伝わる話し方」神職が言挙げを實際に『はやたんで学ぶ』と称して企画し実践しておられるそうです。神職の皆様の努力が伝わってくるようでした。



第三講は『ひろしまの平和発信について』と題して、中国新聞社特別論説委員宮崎智三先生が話されました。核兵器禁止については、核で採めているのは北半球で南半球の数多くの国々は廃止に理解を示しているとのこと。色々な主要国での行事・会合・イベント等によって、核廃絶に向け一歩一歩進んでいるような状況ではあるが、その一歩一歩の幅が狭く永久に近づくだけで到達しないのが現状と思えるとのこと。一歩力を持つていくはずの国連では戦勝国が常任理事国として拒否権を使い強権的な事がなくならない限り難しい問題であり、地球以外の星から攻撃を受けられない限り纏まることは無いだろう。坪井さんが常に言われた「ネバーギブアップ」が一番の対応策と考えられると話されました。進んでも届かないもどかしさを感じるお話でした。

今回の三講義とも内容はそれぞれ違っても共通しているのは、決して諦めることなく熱い思いで努力し続けることの大切さを改めて学んだ研修会でした。



シリーズ 神社の社紋について ⑦

亀甲紋【その3】

広島県内の亀甲紋

県内には現在一五七社の亀甲紋の神社が存在します。

一番多いのは、①『三ツ盛二重亀甲に剣花菱』が一三社、②『三ツ盛二重亀甲に花菱(唐花)』が十七社、③『三ツ盛亀甲に花菱』が三社、④『三ツ盛二重亀甲』が三社、⑤『二重亀甲に剣花菱』が三社、⑥『二重亀甲に三柏』が二社、⑦『二重亀甲左三つ巴』が二社、そして一紋ずつが十四社あります。

また、『三ツ盛亀甲』には、『三ツ盛二重亀甲に五三の桐』や『三ツ盛二重亀甲に剣花角』があり、『三ツ盛二重亀甲』の影響の強い地域であることがわかります。

廿日市市の厳島(宮島)にある「厳島神社」の社紋は『三ツ盛二重亀甲に剣花菱』で、古くは「伊都岐島神社」とも記された、全国に約五〇〇社ある厳島神社の総本社です。

また、対岸に位置する「速谷神社」の社紋は、『三ツ盛亀甲に花菱』で、安芸の大社二社が『三ツ盛・亀甲』を使用していることに、安芸地域の大きな特徴があります。



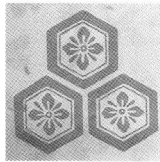
広島県内の亀甲紋分布図(157社/1040社)

支部番号	支部名	亀甲紋数	三ツ盛二重亀甲に剣花菱紋数	三ツ盛二重亀甲に花菱(唐花)紋数	三ツ盛亀甲に花菱紋数	その他の亀甲紋数
1	広島市	9	8	0	0	1
2	呉	3	1	1	0	1
3	三原	2	2	0	0	0
4	尾道御調	3	2	0	0	1
5	因島瀬戸田	4	1	3	0	0
6	沼隈	1	0	1	0	0
7	福山	3	1	2	0	0
8	府中芦品	0	0	0	0	0
9	三次	9	5	0	0	4
10	庄原	1	1	0	0	0
11	佐伯大竹	48	43	0	3	2
12	安芸	4	3	0	0	1
13	安佐	16	13	0	0	3
14	山県東	11	7	0	0	4
15	山県西	22	16	5	0	1
16	安芸高田	5	3	1	0	1
18	賀茂	5	3	1	0	1
19	豊田竹原	6	3	2	0	1
20	世羅	1	0	0	0	1
21	深安	0	0	0	0	0
22	神石	1	0	0	0	1
23	比婆東	1	0	0	0	1
24	比婆西	2	0	0	0	2
25	その他	0	0	0	0	0
	計	157	113	17	3	24

広島県内の主要な亀甲紋

① 三ツ盛二重亀甲に剣花菱 厳島神社など一三社

『三ツ盛二重亀甲に剣花菱』は、厳島神社(公式表記厳島神社)をはじめとして、広島県西部(安芸国)に広く分布し、広島県内では亀甲紋一五七紋中、一三紋を数えます。この数と分布状況は、「厳島信仰」の規模の大きさを示しています。厳島神社は、広島県廿日市市の厳島(宮島)にある神社で、式内社(名神大社)であり、安芸国一宮です。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の別表神社です。古くは「伊都岐島神社」とも記されていました。全国に約五〇〇社ある厳島神社の総本社です。



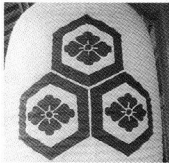
厳島神社

② 三ツ盛二重亀甲に花菱(唐花) 筒賀神社など 十七社



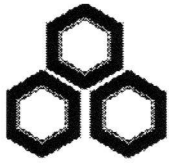
『三ツ盛二重亀甲に花菱(唐花)』は、『三ツ盛二重亀甲に剣花菱』に「剣」のない神紋で、瀬戸内海島嶼部や芸北地域にまとまって分布しています。

③ 三ツ盛亀甲に花菱 速谷神社など三社



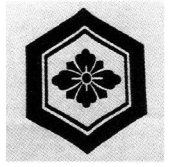
『三ツ盛亀甲に花菱』は、速谷神社の關係する神社の神紋です。「厳島信仰」とは異なる安芸南部地域の亀甲紋信仰圏を形成しています。

④ 三ツ盛二重亀甲 幡崎神社など 三社



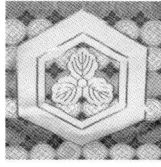
13056 〔安佐支部〕 幡崎神社：広島市安佐北区可部町南原三三
〔祭神：品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命〕 宮司：末田知之
14042 〔山県東支部〕 都志見八幡神社：山県郡北広島町都志見四六〇
〔祭神：応神天皇〕 宮司：末田靖彦
19043 〔豊田竹原支部〕 美加登神社：呉市豊田久比字小條四〇八番地
〔祭神：宗像三女神〕 宮司：越智正浩

⑤ 二重亀甲に剣花菱 出崎森神社など 三社



12001 〔安芸支部〕 出崎森神社：安芸郡海田町寺迫丁二五番三三号
〔祭神：品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命〕 宮司：宗像利道
11016 〔佐伯大竹支部〕 湯之山神社：広島市佐伯区湯来町大字和田四七番地
〔祭神：少彦名神、大日貴神など〕 宮司：川口亮一
25001 〔比婆西支部〕 多賀山神社：庄原市高野町下門田一七六番地
〔祭神：大山祇神、磐長姫命、木花開耶姬命など〕 宮司：須澤直尊

⑥ 二重亀甲に三柏 良神社など 二社



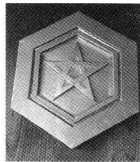
09033 〔三次支部〕 吉舎良神社：三次市吉舎町吉舎八四番地
〔祭神：伊邪那岐神、伊邪那美神、吉備津彦神〕 宮司：安井憲治
09016 〔三次支部〕 石原良神社：三次市石原町九六七番地
〔祭神：伊邪那岐神、伊邪那美神、素戔嗚命〕 宮司：竹廣浩一

⑦ 二重亀甲左三つ巴 龜山八幡神社など 二社



22011 〔神石支部〕 龜山八幡神社：神石郡神石高原町小島三五番地
〔祭神：品陀和氣命、帶中津日子命、武内宿禰命〕 宮司：松井孝之
20012 〔呉支部〕 八岩華神社：呉市仁方西神町二六番号
〔祭神：品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命など〕 宮司：花田忠正

広島県内の特殊な亀甲紋



二重亀甲の中星

01029 〔広島市支部〕 比治山神社 広島市南区比治山五一〇
〔祭神：大國主大神、少名毘古神、素戔嗚命、市寸鳥比売命〕 宮司：大巳和晴



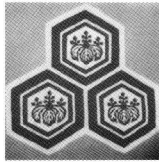
丸に二重亀甲花菱

04002 〔尾道御調支部〕 良神社：尾道市長江二丁目三五
〔祭神：伊邪那岐命、天照大御神、素戔嗚命、吉備津彦命〕 宮司：永井利果



二重亀甲左一つ稲丸

09003 〔三次支部〕 大蔵神社：三次市吉舎町三五六六四
〔祭神：大歳神〕 宮司：佐藤功



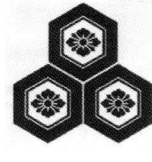
三ツ盛二重亀甲の五三の桐

11083 〔佐伯大竹支部〕 大元神社：大竹市小方町木野二四六
〔祭神：国常立神〕 宮司：荒川 洋



丸に三ツ盛二重亀甲

13056 〔安佐支部〕 友廣神社：広島市安佐北区可部南二丁目四一八
〔祭神：品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命〕 宮司：末田知之



三ツ盛二重亀甲に剣花角

13057 〔安佐支部〕 土井泉神社：広島市安佐北区安佐町飯室六五二
〔祭神：品陀和氣命〕 宮司：河野修典



ニ重亀甲花菱
 15006 〔山県西〕河内神社・山県郡安芸太田町加計九一〇
 (祭神・罔象女神) 宮司・佐々木盛良



亀甲に王
 25014 〔比婆西支部〕王居峠神社・庄原市高野町上湯川八九
 (祭神・素戔嗚命) 宮司・伊達貴臣



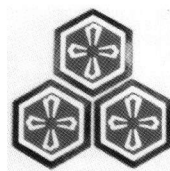
ニ重亀甲に八雲
 20037 〔世羅支部〕八雲神社・世羅郡世羅町賀茂三三四三
 (祭神・素戔嗚命、品陀和氣命) 宮司・竹廣浩一



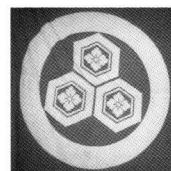
亀甲に梅鉢
 18131 〔賀茂支部〕森正神社・東広島市福雷町上竹仁九五四
 (祭神・品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命、宗像三女神)
 宮司・井口宣貴



ニ重亀甲に吉
 16010 〔安芸高田支部〕高頭神社・安芸高田市向原町有留馬路七〇三
 (祭神・品陀和氣命、帶中津日子命、息長帶日売命) 宮司・長屋和治



三ツ盛亀甲四方剣
 14042 〔山形東支部〕都志見八幡神社・山県郡北広島町都志見四六〇
 (祭神・品陀和氣命) 宮司・末田靖彦



丸に三ツ盛二重亀甲に花菱
 14021 〔山形東支部〕熊野神社・山県郡北広島町川戸二四三
 (祭神・素戔嗚命) 宮司・藤井栄司

事務局だより

◆神社本庁表彰式

去る五月二十二日(水)東京の明治記念館で令和五年度神社本庁表彰式が行われました。式典は午後一時より表彰出席者全員の記念写真撮影後開始され、二昨年から欠席の池田厚子総裁に代わり総裁式辞を鷹司総理が代読後、田中恆清総長から表彰審査の報告。次いで受章者全員の氏名を読み上げられました。各条項毎の代表者に鷹司総理並びに田中総長から表彰状と記念品が授与されました。

次に来賓の久邇朝尊神宮大宮司、小林健全国総代会会長(代理)の祝辞と続き、受章者代表として、この度長老の称号を授与された賀茂別雷神社前宮司田中安比呂氏(京都府)が謝辞を述べられました。最後に岩下忠佳長老の発声により、聖寿万歳が声高らかに奉唱されて式典は滞りなく終了しました。尚、広島県から左記八名の方々が受章され、当日神職・総代二名の方々が出席されました。



【神職】

二一一名
 嚴島神社 宮司 野坂元明

三二四名

國貞山神社 宮司 青山万里子
 八幡神社 宮司 村上嘉彦
 戸宇神社 宮司 朽木孝一
 尾長天満宮 宮司 渡邊清臣

【神職外】

三二三名
 広島護國神社役員 中尾建三
 吉備津神社役員 森江光明
 白山八幡神社総代 中野久男
 (敬称略)

◆【訂正】

前号の庁報(一五三号)のP6に誤記がありました。神社関係団体 令和五年度 活動報告 (誤)久保田竣司 (正)久保田峻司
 茲に謹んでお詫び申し上げますと共に訂正致します。

支部だより

呉支部

「全国神社スカウト協議会代議員会」

令和六年七月六日に全国神社スカウト協議会代議員会が開催されました。神社を母体とするボーイスカウト・ガールスカウトの代表者が出席しました。令和六年三月末の加盟団数は全国で七十四個団です。会議では令和五年度の会務報告、令和六年度の事業計画などが話し合われました。スカウト活動の中には宗教章を修得するというものがあります。神社スカウトは神道章の修得を目指しています。その神道章の修得の後押しを協議会で確認することができました。最後に優秀指導者表彰並びに年功表彰を執り行い終会となりました。広島県では八幡神社（呉市吉浦鎮座）所属のボーイスカウト呉第十五団（団委員長横田光則）育成会長横田欣子とボーイ隊長脇本雄太二名が優秀指導者表彰を受けました。

(横田光則 通信員)



山県西支部

「支部総代連合会総会を開催」

山県西支部総代連合会（西川征吾会長）では、六月十一日（火）の午後一時三十分から「総代連合会総会」を開催致しました。開催に当たり、戸河内大歳神社（梶原武彦宮司）に於いて、「安全祈願祭」が斎行され、出席の各神社の総代・宮司が参列しました。続いて会場を戸河内交流センターに移して総会を開き、令和五年度の「事業報告並びに決算書」の承認を受け、続いて令和六年度の「事業計画・予算案」の承認を受けました。三時から研修会を開き、講師に総代連合会副会長で猪山大歳神社責任役員であり、郷土史の研究等で祭りや、神楽について熱心に研究されている佐藤喜徳氏が「祭と神楽の関係について」の演題で講演され、全員熱心に聴講しました。その後、質疑応答があり、四時三十分頃閉会しました。

(梶原武彦 通信員)



三原支部

「地域おこしと文化財」

疫病新型コロナウイルスも静まる中で、経済活動の活性化や地域活動の復活を願う地域住民の熱意の下、三原市内では県指定無形民俗文化財の奉納行事が二件この春に奉納されました。一件は三原市幸崎町に伝わる「能地春祭のふとんだんじり」で三月第三土曜日（日）に常磐神社に奉納されました。だんじりの神幸獅子舞に獅子太鼓が演奏される古い姿を残しています。もう一件は御調八幡宮（桑原國雄宮司）に奉納された「花のおどり」で四月の第二日曜日に行われました。この踊りは、九年ぶりの奉納でしたが、保存会だけでは人的にも財源的にも困難なため町内会が支えることで、昭和初めに描かれた絵巻に近似た姿で再現されました。

歴史の中で共同体が弱体化しているかと思いますが、氏神社を核として再興を図る機会ではないでしょうか。

(桑原光彦 通信員)



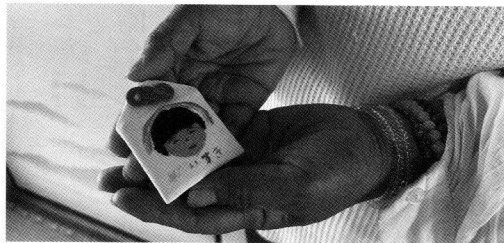
尾道御調支部

「御守づくり」

尾道御調支部には、奉職する前に様々な職業に就いていた神職が多く、前職で得た知識や経験を日々の奉仕に活かしています。その中の一人、マイクロソフトの米国本社に勤めていた神職は、絵を描いたその場で御守袋がつくれるシステムを開発し、直ぐにオリジナルの御守を一体からでもつくれるようにしました。

年に三回、母の日・父の日・敬老の日に、子供たちが神社にお詣りして父母や祖母の似顔絵を描き、感謝や応援の言葉を書き添えて御守袋をつくりまします。そして、御神前に参拝し小さな神札を授かり、出来上がった御守袋に納め、世界に一つしかないおおかあさん守・おとうさん守・おばあちゃん守・おじいちゃん守が完成します。

このシステムを開発した向島鎮座の厳島神社（郡山龍宮司）では、御守づくりに興味のある神社に無償でノウハウを提供しており、パソコンがちよつと使える神職なら直ぐにでも始められます。



(郡山 龍 通信員)

世羅支部

「五行祭神楽を奉納」

三月下旬に世羅町重永鎮座の八幡神社（竹廣浩二宮司）の氏子地域内にある三上神社で五行祭神楽が奉納されました。世羅町、府中町、豊栄町、三次市などから神楽太夫が集まり舞う所謂王子神楽です。神社の近くの会館で祭典の後昼前から清めの舞、そして大王、后に始まり、太郎、次郎、三郎、四郎、五郎と全員が舞出をして最後の問訊博士まで行くと六時間が過ぎました。その後能舞の「八重垣」が奉納され八時間余りで終了しました。若手の方々も物凄く勉強されていきましたので、氏子や観客の方も食い入るように楽しまれて「初めて見たけど興奮して最後まで見入ってしまった」との声も。舞い手もですが観てくださる方々も体力勝負と思われました。

三上神社では五年に一度恒例のようにこの王子神楽を奉納されましたが、十二年前から途絶えていました。長時間の神楽ではありませんが広島県の伝統文化として何とか残していきたいと強く感じました。神社総代を始め地元の方々にも感謝申し上げます。



(竹廣浩二 通信員)

安芸高田支部

「市入り例大祭と子ども歌舞伎」

安芸高田市吉田町鎮座の清神社（波多野公一宮司）には、古くから伝わる神輿の御幸がある。市入り例大祭と呼ばれ毎年新緑の五月五日に行っている。

今年も古式の装束を纏った中学生と氏子総代ら総勢五十余名が、一日かけて市中八か所のお旅所を巡った。本来であれば四十数名の中学生が中核として御幸を担うが、コロナ禍三年間の中止による影響で、中学生の確保に困難をきたしたものの、中学生十九名と各地域総代を総動員し無事執り行うことができた。

御幸には子ども歌舞伎を演じる壇尻屋台一組がお供をするが、コロナ禍以降の昨年からは、一組となった。御幸の神事は往古からの記録があるが、子ども歌舞伎はその後、延宝二年（一六七四）から御幸のお供として始まり、三百五十年の節目を迎えた。

長い間、時間をかけて培われ、受継いできたこの伝統ある歴史的文化的事業は、清神社のみならず地域の大きな財産ともいえ、子ども歌舞伎とともに将来に亘って守り伝え、後世に残すべく努力しなければならぬと考えている。



(波多野公一 通信員)

三次支部 「過疎地域神社活性化推進施策」

三次市三次町の太歳神社（小原広教宮司）にて、「比熊山を知る二日間」と題して、妖怪伝説の残る本殿裏手の比熊山について、登山安全祈願祭と比熊山についての講演会。そして実際に比熊山に登り、神籠石などを巡る催物が神社本庁が推進する第二期「過疎地域神社活性化推進施策」の一環として行われた。「稲生物怪録」という妖怪にまつわる怪異をとりまとめた物語に登場するのが、太歳神社であり、比熊山（山城跡）である。初日は午前中に太歳神社境内に臨時の斎場を設け、比熊山登山の登山安全祈願祭が神職四名によつて執り行われ、総代や関係者などが参列し今シーズンの安全を祈願した。午後からは会場を移し、講師三名による講演会が開催され、妖怪伝説の舞台となった比熊山の歴史や、神社建立以前に祭祀を行っていた磐座とされる神籠石などについて語られた。



二日目は、実際に比熊山に登山し、妖怪伝説と関連づけて語られる比熊山城址の神籠石（通称「たたり石」）、浅野長治公墓所参道の神籠石（通称「浅野石」）などをガイドの説明を聞きながら巡った。

太歳神社では、今後も神職と地域住民が連携して神社や比熊山の歴史文化を広く発信し、地域の宝として次世代へ繋ぐ取り組みを行っていくこととしている。

（小島直樹 通信員）

支部だより

呉支部 「視察研修会」

令和六年五月十三日に高尾神社（梶山友美宮司）で岡山県神社庁教化委員会事業部会が主催する視察研修会が行われました。「民社の生き残る力を共に考える」をテーマに行われ岡山県内神職・同配偶者三十四名と岡山県神社庁副庁長が参拝されました。

高尾神社では参拝奉告祭の後、参集所にて約一時間、本庁モデル神社に指定された二年間の活動報告等の講話が梶山宮司により行われました。また、一行は十四日には賀茂支部の杉森神社（岡田光統宮司）に参拝をされました。



（横田光則 通信員）

編集後記

庁報「二葉」第154号をお届けいたします。ご寄稿下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。さて今年梅雨入り前から猛暑に襲われ、広島県が40度越える日も間近かもしれません。熱中症対策は今や世間全体の課題となりました。神社も参拝者の安全を守る対策を行いつつ、厳しい夏を乗り切りたいものです。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

庁報編集委員一同

広島市支部

「東照宮本地堂竣工記念行事」

東照宮(久保田実技宮司)では、広島市指定重要文化財本地堂の保存修理工事及び周辺整備事業が四月末に完了した。それに伴い五月十四日、浅野家第十八代当主浅野長孝様、広島県神社庁長吉川通泰様をお迎えし、関係者一三〇名参列の下、厳かに竣工奉告祭が斎行された。

この度の復原工事で、本地堂は全国で唯一の春慶塗建造物となり、祭典後には文化財建造物保存技術協会の工事主任による解説が行われた。

正午からはホテルグランヴィア広島で祝賀会が催された。オープニングでは、ドローンによって上空から撮影された本地堂や東照宮の全景、工事期間中の様子がスクリーンに映し出された。



その後の主催者挨拶に続き、広島市長松井一實様が祝辞を述べられた。清興では喜多流能楽師職分栗谷明生氏らによる謡と小鼓の演奏が披露され、清らかな音色が会場内に響きわたった。そして吉川神社庁長のご発声により声高らかに乾杯が行われた。

祝宴中には、明治期の本殿拝殿の檜皮葺の葺き替えの様子なども映像で紹介された。二時間半に及ぶ祝宴は和やかに幕を閉じ、竣工記念行事のすべてが無事終了した。

(池田憲明 通信員)

府中芦品支部

「重要文化財本殿防災設備完成披露会の開催」

福山市新市町の吉備津神社(追林貴之宮司)では、四月二十八日、火災などから本殿を守るための国庫補助事業(文化庁)『重要文化財 吉備津神社本殿 防災施設整備(建造物)工事』の完成披露会が開催されました。吉備津神社では、令和元年より始められた国庫補助事業『重要文化財 吉備津神社本殿 保存修理工事』を核とした『令和の大遷宮』事業を行い、今回の防災設備の完成をもって事業が完了したこととなります。以前の防災設備は、五十年以上が経過し、老朽化が著しく、文化庁が国宝・重要文化財の防火対策を見直す事業の一環として、工事を実施しました。



防災設備は、おおむね新設とし、特に本殿の周囲に自動放水銃を四基、ならびに一人でも操作できる消火栓を三基設置し、貯水槽は今までの容量の三倍にあたる一二三トンのものを新設しました。また、煙感知器・熱感知器などの警報設備、監視カメラや赤外線防犯センサーなどの防犯設備も整備し、社務所を防犯拠点とした監視・制御体制を整えました。

完成披露会には、福山市・枝廣直幹市長をはじめとして、消防関係者・工事関係者・地域住民が多数参加し、オープニングの当社雅楽部の演奏に引き続き、宮司・市長・消防署長の挨拶の後、設計・管理を担当した(株)大東設計による設備の説明、備後しんいち鬼炎太鼓による勇壮な演奏の後、四基の放水銃による一斉放水が数分間おこなわれ、あたりはマイナスイオンに包まれました。

完成披露会には、福山市・枝廣直幹市長をはじめとして、消防関係者・工事関係者・地域住民が多数参加し、オープニングの当社雅楽部の演奏に引き続き、宮司・市長・消防署長の挨拶の後、設計・管理を担当した(株)大東設計による設備の説明、備後しんいち鬼炎太鼓による勇壮な演奏の後、四基の放水銃による一斉放水が数分間おこなわれ、あたりはマイナスイオンに包まれました。

(尾多賀晴悟 通信員)

